

(様式3)

農業農村整備事業等事後評価地区別結果書

関 東 農 政 局

都道府県名	群馬県	関係市町村名	あんなかし・とみおかし 安中市・富岡市 あんなかし まつい だまち みようぎまち (安中市・松井田町・妙義町)
事業名	畑地帯総合整備事業	地区名	よこの だいら 横野平
事業主体名	群馬県	事業完了年度	平成17年度
〔事業内容〕 事業目的：本地区は、群馬県西部、一級河川碓氷川と高田川に挟まれた洪積台地であり、安中市（含旧松井田町）及び富岡市（旧妙義町）の2市にまたがる通称「人見原」と呼ばれる地区で、養蚕を主体とした畑地帯である。 農業経営の近代化に対応するため、未整備の農地と農道を一体的に整備し、生産性の向上と担い手への農地集積を促進し、農業経営の安定と農業構造の改善を図ることを目的とする。 受益面積：247ha 受益者数：449戸 主要工事：整地工：247ha 農道工：45km 用水路工：9km 排水路工：27km 総事業費：3,961百万円 工期：昭和62年度～平成17年度（計画変更：平成9年度）			
〔項目〕 ア 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化 1 農作物の生産量の増加 ・ 従来はこんにゃくいも、養蚕、飼料作物が農業生産の主体であったが、養蚕（桑園）がなくなり、こんにゃくいも等の土地利用型作物の規模拡大が図られている。 〔作付面積の変化〕 (昭和61年度) 水稲 : 33.1ha (事業実施前) → 19.3ha (計画) → 24.9ha (評価時点) こんにゃくいも : 74.2ha (事業実施前) → 92.8ha (計画) → 175.9ha (評価時点) ねぎ : 12.0ha (事業実施前) → 20.3ha (計画) → 18.9ha (評価時点) ごぼう : 23.0ha (事業実施前) → 39.2ha (計画) → 7.7ha (評価時点) 青とうもろこし : 62.4ha (事業実施前) → 74.1ha (計画) → 10.4ha (評価時点) 桑 : 53.4ha (事業実施前) → 0ha (計画) → 0ha (評価時点) ※評価時点については、事業主体から提供のあった平成19年度のデータを使用しているが、関係機関からの聞き取りの結果、概ね同等程度であることを確認している。 (資料：事業計画書、安中市、富岡市、土地改良区聞き取り) 2 営農経費の節減 ・ 本地区の主要な農作物であるこんにゃくいも栽培においては、未整備・小区画のため人力作業が中心となり労働時間が多かったが、評価時点では、機械化体系が進んだため労働時間の短縮が図られている。			

[こんにゃくいも栽培における労働時間の変化]

	(昭和61年度)	→	(平成9年度)	→	(平成23年度)
	未整備・人力中心		整備・大型機械体系		整備・大型機械体系
労働時間	1,108hr/ha (実施前)		705hr/ha		211hr/ha
(備考)			(一部人力)		(ほとんどが機械化作業)
	(評価時点資料：群馬県農業農村整備事業費用対効果係数等H23年度版)				

イ 事業効果の発現状況

1 事業の目的に関する事項

- ・ 大型機械化農業の展開可能な汎用農地を整備したことにより、機械化が可能なこんにゃくいも栽培等の土地利用型農業の発展を促し、養蚕を主体とした農業経営からの脱却により、農家所得の向上が図られた。

[参考：養蚕農家とこんにゃくいも栽培農家の一戸当たり所得比較（経営モデル）]

栽培面積等	養蚕年6回×0.5ha	こんにゃくいも10ha
農業所得	5,614千円/年	13,210千円/年
時給	582円/h	2,497円/h

(資料：栽培面積、所得は農業経営指標（群馬県農政部(H21年度)）)

2 土地改良長期計画における施策と目指す成果の確認

[農地の有効利用と担い手の育成]

- ・ 地域農業の中心となる担い手を育成し、担い手の経営耕地面積が増加しており、効率的な農業生産が可能となる農業基盤の確保が図られた。

(資料：ぐんま水土里保全整備プラン（群馬県農政部）)

(1) 本地区の事業を契機とした担い手への農地集積面積

	(平成9年度)		(平成19年度)		増加面積
担い手への集積面積	32ha	→	67ha		35ha

※担い手への集積面積について、事業実施主体から提供のあった事業実施前に一番近い時点（平成9年）と評価時点の直近（H19年）のデータを使用している。

(2) 本地区の担い手の平均経営耕地面積

	(昭和61年度)		(平成9年度)
	2.4ha (事業実施前)	→	3.8ha → 4.2ha (評価時)

※評価時点については、事業実施主体から提供のあった直近（H19年）のデータを使用している。

3 費用対効果分析の算定結果

妥当投資額 (B) :	5,423百万円
総事業費 (C) :	4,225百万円
投資効率方式 (B/C) :	1.28

ウ 事業により整備された施設の管理状況

- ・ 整備された道路・水路等は、農地・水・環境保全向上対策により設立した環境保全協議会の農業者や地域住民が主体となり、道路・水路の維持補修や草刈を行うなど適正に維持管理されている。

エ 事業実施による環境の変化

1 生活環境

- ・ 未整備の地域と比較すると耕作放棄もほとんど無いことから、地域の農地が守られ、良

好きな畑地帯の景観及び環境が保全されている。

2 自然環境

- 事業説明会において、地区内や隣接する地域住民についても事業内容の説明などを行い、事業に対する理解を得ていたため、事業完了後は、本事業により用地を創設し整備された公園や農業用水施設を核にして、自治会や育成会による「花いっぱい活動」や、任意団体「中野谷蛭の里」による自然保全活動への取組が行われている。

3 農業生産環境

- 生産性の向上と担い手への農地集積などによる効率化を図ることが重要であり、本事業の実施により農地集積が進み、担い手農家の一戸当たり平均経営耕地面積が事業実施前の2.4haから4.2haに増加した。力強い担い手が育成され、持続的な農業生産が可能となる良好な農業生産環境の保全が図られている。
- 本事業地区内の担い手農家であるA氏（安中市）は、本事業を契機に養蚕経営からこんにゃくいも栽培経営に転換。こんにゃくいも栽培は機械化体系が確立されていることもあり、経営規模拡大のための農地の集積が順調に進み、経営耕地面積は養蚕経営が主であった時期（事業実施前）の4.66haから9.72haまで拡大し、年間販売金額も事業実施前の400～450万円から3,000万円に大きく増加した。

オ 社会経済情勢の変化

1 社会情勢の変化

- 当地区の受益は安中市、富岡市の2市にまたがっている。安中市は平成18年に旧安中市、松井田町と、富岡市は平成18年に旧富岡市と妙義町と合併した。地区採択当時の昭和62年と平成22年時点における各市町村の人口及び世帯数の推移は以下のとおりであり、人口は概ね横ばいであるが、世帯数においては増加傾向にある。

＜人口（世帯数）の推移＞

	（昭和62年）		（平成22年）
安中市	45,060人（12,916世帯）	}	→ 61,053人（22,179世帯）
松井田町	18,667人（5,307世帯）		
富岡市	48,640人（13,239世帯）	}	→ 52,080人（18,279世帯）
妙義町	5,264人（1,282世帯）		
合計	117,631人（32,744世帯）		→113,133人（40,458世帯）

（資料：平成23年市町村別世帯数及び人口（群馬県統計課））

2 地域農業の動向

- 農業基盤整備事業は、営農条件の改善に大きな成果を収めている。
- 本地区は養蚕経営が盛んであったが、諸外国との価格競争などの社会情勢の変化により養蚕からの脱却が急がれ、こんにゃくいも等を主体とする土地利用型農業へ移行していった。

[養蚕農家戸数（単一経営）]

	昭和60年度		平成12年度		平成22年度
群馬県全体	27,195戸	→	367戸	→	0戸
安中市	1,654戸	→	162戸	→	0戸
松井田町	236戸	→	13戸	→	0戸
富岡市	1,593戸	→	55戸	→	0戸
妙義町	446戸	→	8戸	→	0戸

（資料：農林業センサス）

[こんにゃくいも栽培面積]

	昭和61年度		平成19年度
横野平地区	74ha	→	176ha

（資料：事業計画書、安中市、富岡市、土地改良区聞き取り）

※参考

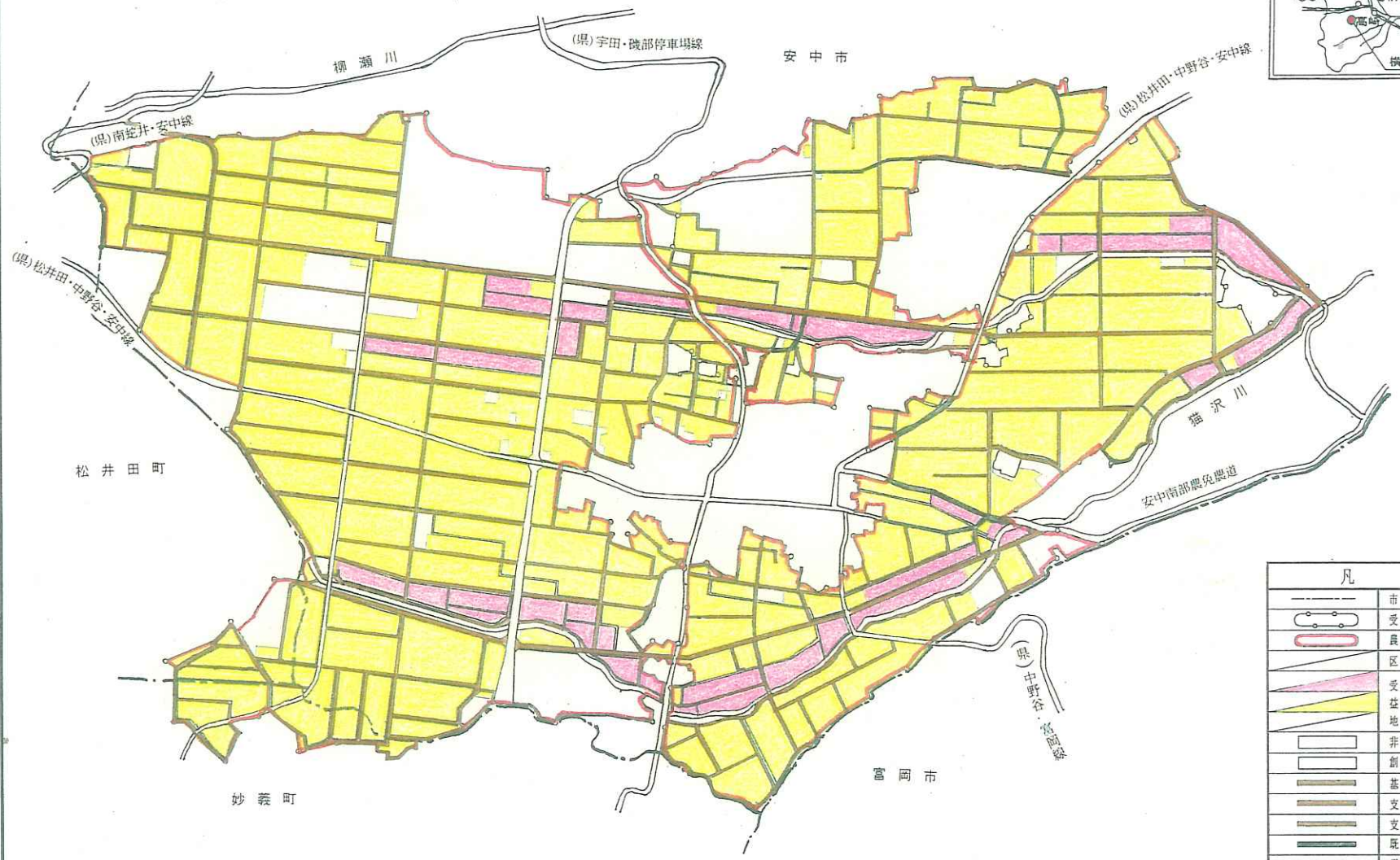
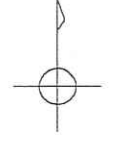
群馬県全体： 昭和60年度 5,770ha → 平成21年度 3,520ha
(資料：群馬農林水産統計年報)

カ 今後の課題等

- ・ 事業実施後、こんにゃくいも栽培を中心とした土地利用型専作農家に農地の集積が図られ効率的な農業が行われている。今後は、新たな担い手の育成やこんにゃくいも専作農家等の高齢化に伴い軽量で収益性の高いほうれんそうやねぎなどの群馬県重点野菜品目の推進を行い、複合化による経営の安定を図ることが課題となる。(群馬県農業振興プラン2010(H17年度))

事後評価結果	<ul style="list-style-type: none">・ 本事業の実施により大型機械の導入が可能となり、機械化が可能なこんにゃくいも栽培等の土地利用型農業への転換が図られた。・ 国内外の産地間競争が激化する中、地域農業の持続的な発展を図るためにも、担い手への農地の集積と生産基盤の改善を一体的に図れる畑地帯総合整備事業による取組を有効な手段として今後も取り組んでいく必要がある。
第三者の意見	<ul style="list-style-type: none">・ 事業実施により、桑園から機械化が可能なこんにゃくいも等土地利用型作物への転換が図られ、農業の近代化及び農家所得の向上も図られている。・ 今後は、ブランド化などによる競争力の高い農作物の生産、販売が望まれる。

一般計画平面図



凡 例	
	市長村界
	受益区域
	農道区域
	区画整理区域
	受益地
	水田
	畑地
	非農用地
	創設非農用地
	基幹農道
	支線道路 A
	支線道路 B
	既設道路
	用水路
	排水路
	集出荷場(既設)
	集出荷場(新設)

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	畑地帯総合整備事業	都道府県名	群馬県	地区名	横野平
-----	-----------	-------	-----	-----	-----

1. 費用便益比の算定

(単位：千円)

区分	算定式	数値	備考
総事業費	①	4,224,913	
年総効果額	②	292,291	
廃用損失額	③	—	廃用する施設の残存価値
総合耐用年数	④	37	当該事業の耐用年数
還元率×(1+建設利息率)	⑤	0.0539	総合耐用年数に応じ年総効果額から妥当投資額を算定するための係数
妥当投資額	⑥=②÷⑤-③	5,422,833	
投資効率	⑦=⑥÷①	1.28	

2. 年効果額の総括

(単位：千円)

項目	年効果額	効果の要因
作物生産効果	31,539	農業用排水施設の整備による単収の増加及び作付増加 対象作物：水稲、こんにゃくいも、さといも、ネギ
営農経費節減効果	89,250	ほ場整備事業等による労働の省力化、機械経費の節減 対象作物：水稲、こんにゃくいも、ゴボウ、ネギ
維持管理節減効果	△8,050	用水施設の整備を実施することによる維持管理費の節減 対象施設：用水路、排水路、貯水池
走行経費節減効果	95,051	農道が整備される事による農作物、農業生産資材等の搬出入に係る農業輸送交通の節減 対象作物：水稲、こんにゃくいも
更新効果	84,501	既存施設の更新による従前の農業生産の維持 対象施設：用排水路、農道
計	292,291	

3. 評価に使用した資料

【共通】

- ・農林水産省構造改善局計画部監修（1988）「[改訂]解説土地改良の経済効果」大成出版社

【費用】

- ・群馬県「農業農村整備事業計画費用対効果諸係数等」（平成19年度用）

【便益】

- ・群馬県「農業農村整備事業計画費用対効果諸係数等」（平成19年度用）
- ・関東農政局群馬農政事務所「群馬農林水産統計年報」
- ・「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について」（平成19年3月28日農林水産省農村振興局企画部長通知）
- ・「土地改良事業における費用対効果分析に用いる諸係数の補足資料の送付について」（平成19年3月30日関東農政局農村計画部長通知）
- ・「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数及び参考資料等について」（平成19年3月28日関東農政局企画部事務連絡）
- ・効果算定に必要な各種諸元は、群馬県農政部